

中西のぶひろと市政を語る

小中一貫で 東大阪の教育が変わる！

- ▶ 平成30年2月25日
- ▶ 豊浦自治会館

【1】戦後の義務教育

●戦後義務教育は、小学校6年・中学校3年の9年制で行われてきた

子どもの心身の発達の早期化

子どもをとりまく社会環境の変化

●小学校から中学校にスムーズに移行できない

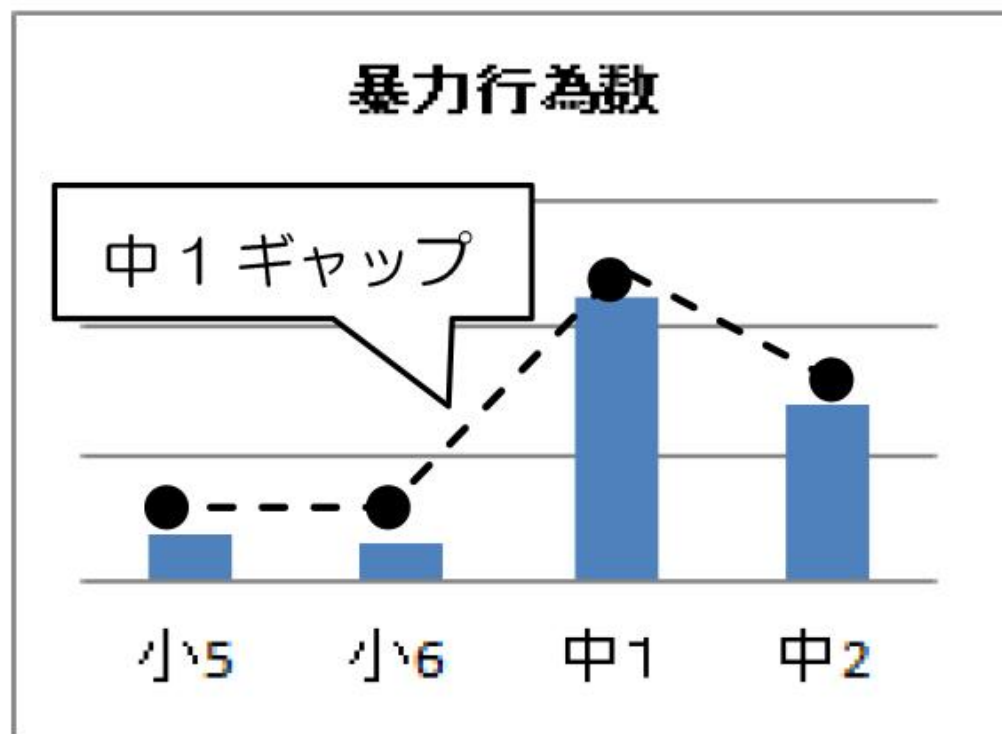
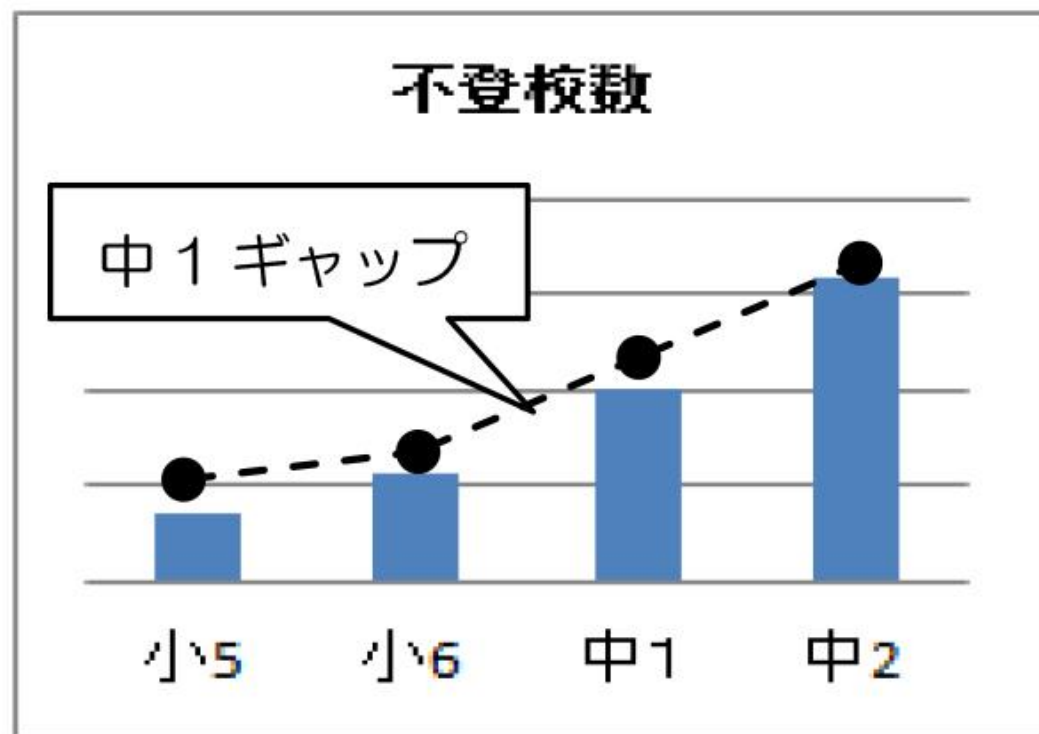
いじめや不登校の増加

勉強についていけない子の増加

「中一ギャップ」といわれる問題

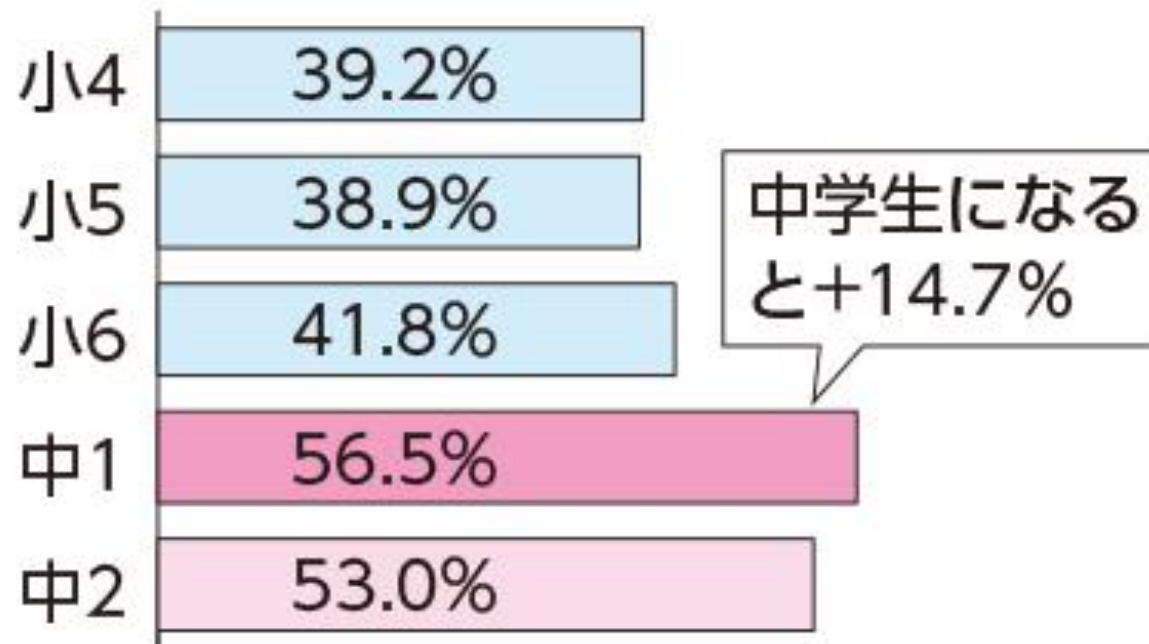
▼「不登校の数」「暴力行為の数」

中1ギャップがあります。(H26 年問題行動等生徒指導上の調査より)

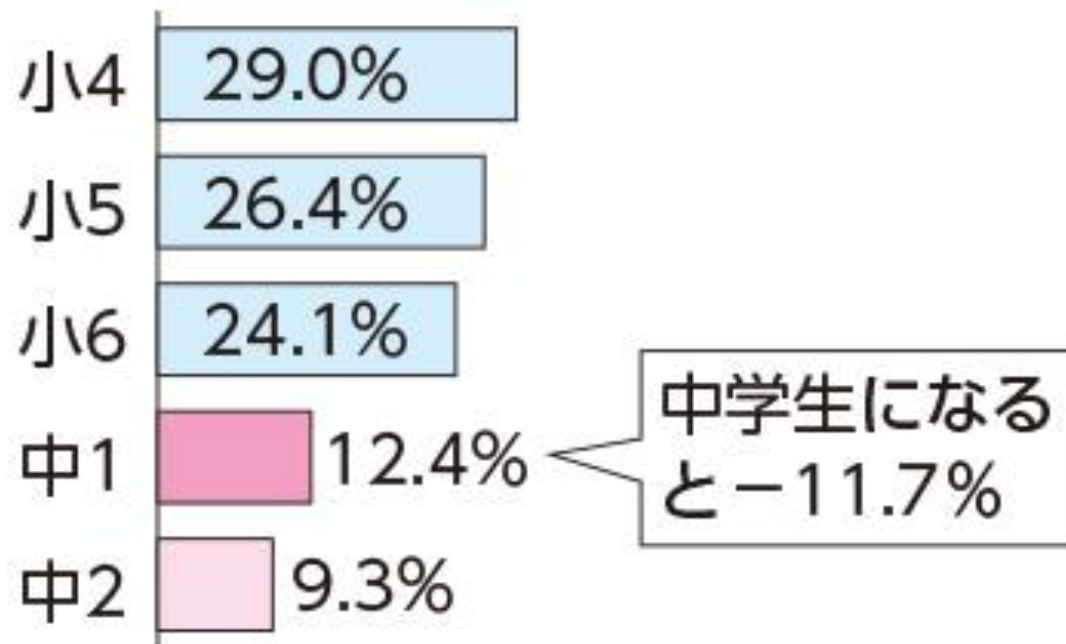


学年別の学習上の悩み

上手な勉強のやり方がわからない



学校の授業がよくわかる



(文部科学省『「小中一貫教育」の現状と今後の方向性について』より)

●さらに、東大阪市では学力や体力の面で問題がある

平成20年からの学力向上施策に大きな効果なし

東大阪市の教育を何とかしなければ！

【2】義務教育制度の見直し

■小中一貫教育と義務教育学校

●小中一貫教育

小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す一貫性を持たせた体系的な学校制度

従来の小学校、中学校という制度はそのままにした改革

●義務教育学校

学校教育法の改正により、2016年度(平成28年度)からできるようになった9年制の学校教育制度

新しい義務教育制度

■小中一貫教育とは

●小中連携教育との違い

小中連携は、小中がそれぞれ情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す教育であり、

小中一貫は小中が目指す子ども像を共有し、9年間の教育目標を明確にして、一貫した教育課程を編成し系統的な教育ができる

●教員の相互乗り入れと、指導方法や指導体制を改善できる

●柔軟な教育課程の編成が可能になる

6-3制のみならず5-4制、4-3-2制も可

小学校・中学校という壁を取り払い、小学校と中学校のつながりを、さらに意識した教育活動

■義務教育学校とは

- 前期課程(小学校課程)と後期課程(中学校課程)に分かれる
中学校受験する人は、前期課程修了が資格となる
- 学年の区切りは、自由に設定できる
6-3制、4-3-2制、5-4制
- 施設一体型、施設分離型がある
- 教員は小学校・中学校の両方の免許が必要(当分は経過措置)
- 校長は一人
副校長をおくことが出来る

■小中一貫教育・義務教育学校の実施状況

●小中一貫教育

取り組んでいる自治体 239/1718（平成29年度）

●義務教育学校

平成28年度22校・29年度39校・30年度37校

31年度以降開校予定をいれても、全部で136校（全国の公立小中学校約29,300校）
（開校・開校予定の136校のうち、施設一体型は109校・分離型はわずか5校）

●東大阪市の覚悟

31年度から、全小中学校で小中一貫教育が行われます

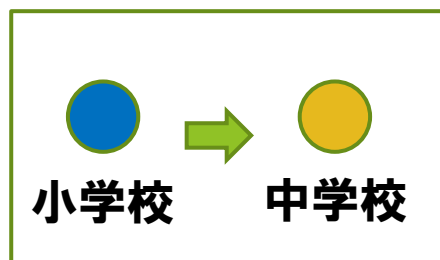
小中一貫のモデル校として、2校区で義務教育学校の設置
一部の学校だけではだめなの？・・・**NO!**（教育委員会）

東大阪の小中一貫教育にかける意気込みを感じます

【3】東大阪における小中一貫教育と義務教育学校

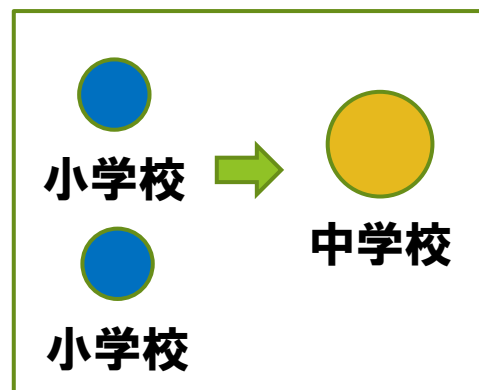
●東大阪の校区

小学校:52校(52小学校区)
中学校:25校(25中学校区)



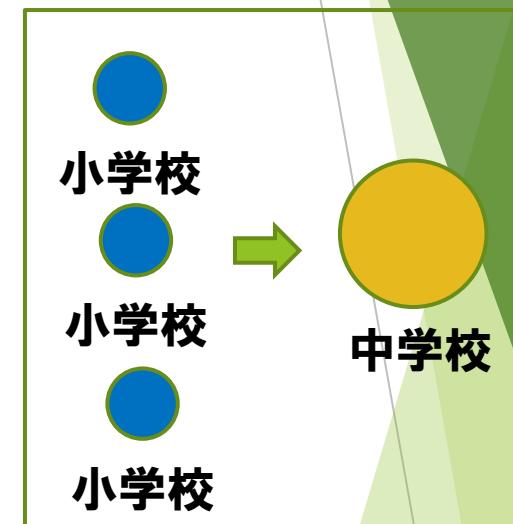
【1小1中】

(例)
縄手南小→縄手南中
池島小→池島中



【2小1中】

(例)
縄手小 → 縄手中
上四条小



【3小1中】

(例)
花園小 → 花園中
玉串小
花園北小

■東大阪の義務教育学校

縄手南中学校区と池島中学校区の2校区で実施
(どちらの校区も1小1中)

東大阪市の小中一貫教育のモデル校

義務教育学校くすは縄手南校(予定)

義務教育学校池島学園(予定)



施設分離型の義務教育学校

■小中一貫で、どんなことをするの

- 中学校区ごとに、9年間を通した教科教育課程の作成・実施
- 小学6年生が、中学校へ部分的に登校する
- 小学6年生に、一部教科担任制を導入する
- 小学5年生・6年生で定期テストを実施する
- 東大阪市独自の「未来市民教育」を実施し、東大阪の歴史や自然・産業に関する教育を通して、コミュニケーション力や郷土への誇り、情報活用能力等を見につけた「グローバルな人材」の育成を目指す
- 将来的には、教員の相互交流
 - 中学校の教員が、小学校で教科を担当する
 - 小学校の教員が、中学校で学び直しの子どもを指導する

■東大阪が目指す小中一貫教育

東大阪市教育システムとしての東大阪小中一貫教育

学校移行期に
おける
円滑な接続と適応

確かな
学力の定着

郷土に誇りをもつ
グローバルな人材
「グローバルな人材」
の育成

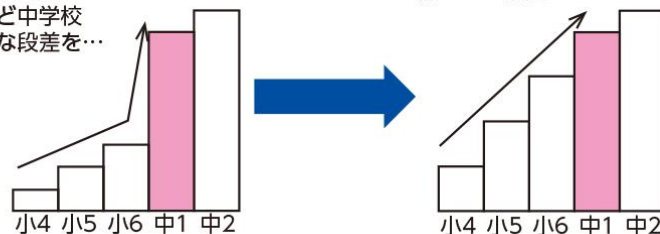
※グローバル＝グローバル×ローカル

- ・すべての中学校区において、9年間を見通した系統性・連続性のある教育カリキュラムの実施
- ・中学校区独自の取組みの工夫

- ・地域社会を大切にしながら、広く世界に開かれたグローバルな視野を持ち行動できる人材の育成

小中一貫教育で不安を解消

環境の変化やそれに伴う不安など中学校進学への急な段差を…



■東大阪の教育を変えていくチャンス！

- 平成31年度から小中一貫教育・義務教育学校がスタート

- 戦後最大の学習指導要領の改定

小学校は平成32年度から、中学校は平成33年度から全面实施(平成30年度から先行実施)

変化する社会、グローバル社会に主体的にかかわっていく力を育成する

小学3・4年生:聞く・話すを中心とした外国語活動

小学5・6年生:読む・書くを加えた英語

知識の習得⇒アクティブラーニング

- 中学校給食を31年度から順次実施

- 平成31年度に全小学校普通教室に空調設備を設置

(中学校はすでに実施している)

■東大阪市として特色ある教育を！

～東大阪の教育の目指すべき着地点は何か

●学力・体力の後進都市からの脱皮

学力向上・体力向上は、教育の基本

●ひとり一人の個性を伸ばす教育

障害のある子ども一人ひとりを大切にした教育の充実

小中の教職員がいっしょになって、一人ひとりのこどもを9年間見守り続ける

●地域のことをよく知り、地域を愛し、地域に誇りを持つ子どもたちの育成

地域の歴史や伝統文化、自然、産業の学習

●家庭との連携

早寝、早起き、朝ごはんの生活習慣

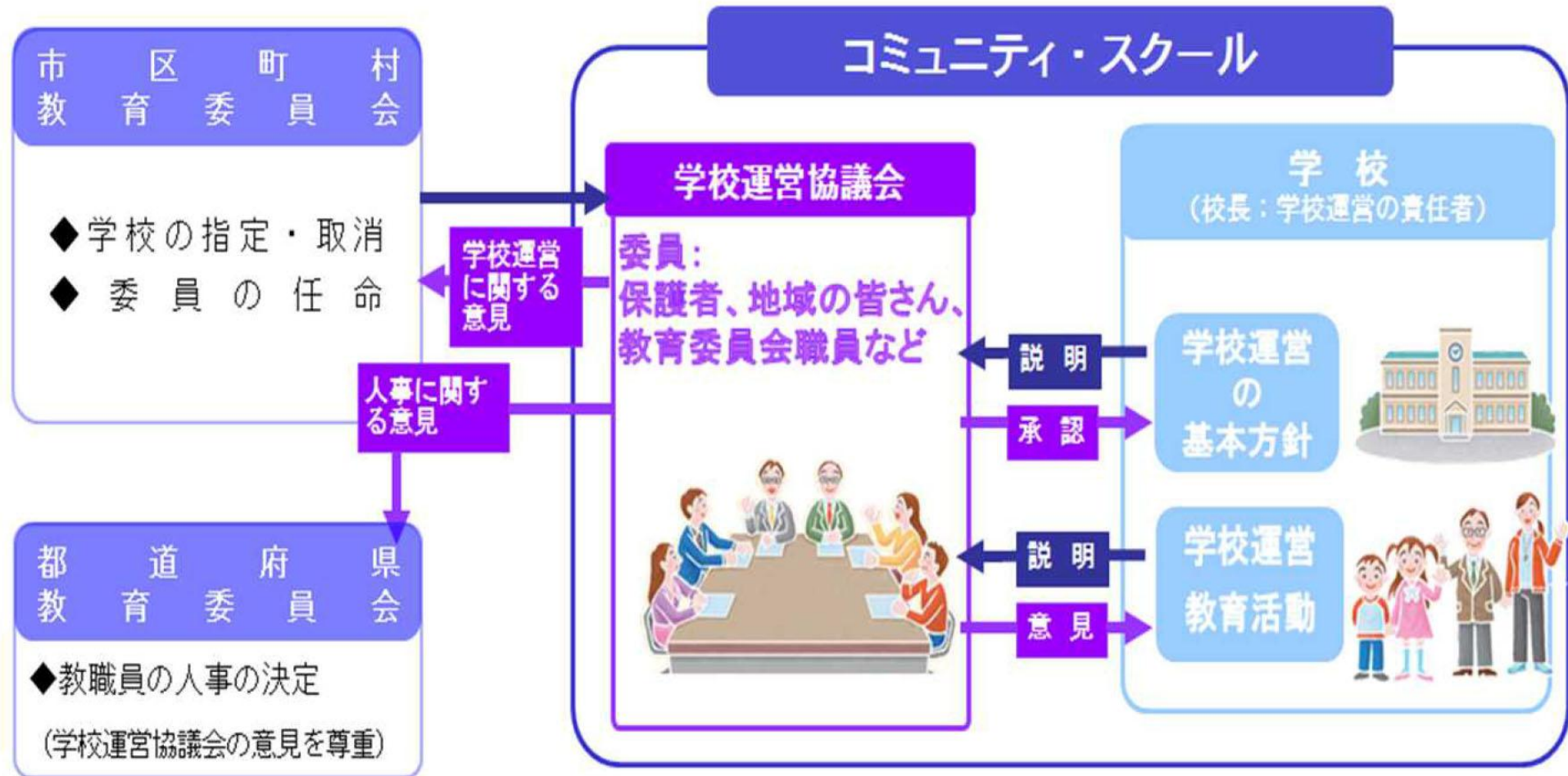
●地域との連携が進んだ教育

コミュニティスクール(学校運営協議会を設置している学校)の推進

※コミュニティスクールとは
学校運営協議会を設置している学校

校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
学校運営について、教育委員会や校長に意見を述べるができる
教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べるができる

<コミュニティ・スクールのイメージ>



これからの学校は、 「地域に開かれた学校」 「地域とともにある学校」

●学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組む

●公民館や、保育所、介護の施設がある学校づくり

※京都市立御池中学校の例(平成15年新設)

2～7階:御池中学校

1～2階:乳幼児保育所

1階:老人サービス施設、レストランなど



地域のコミュニティの核になる学校づくり



次回の **中西のぶひろと市政を語る会**

■ **3月18日(日) 午後2時～3時**

場 所: 四条会館(四条町)

テーマ: 困っておられませんか？ 増え続ける空き家！

■ **4月15日(日) 午後2時～3時**

場 所: 東体育館中会議室(鷹殿町)

テーマ: 30年度の東大阪の施策

**みなさん
ありがとうございました**

東大阪市議会議員

中西のぶひろ